



くものいと

KU MO NO I TO

No. 48

関西クモ研究会

March 2015

くものいと No. 48

March 2015

目次

奈良県内のトタテグモ類の新産地	関根 幹夫	1
カバキコマチグモとミドリアシナガグモを奈良県で確認	関根 幹夫	5
チュウガタコガネグモは山地性のクモなのか？	関根 幹夫	7
アダンソンハエトリ チェコへ行く		
アダンソンハエトリの長旅	本多 佳子	10
海外に蜘蛛を送ってみた！	黒田 あき	11
青いジョロウグモ？	加村 隆英	13
セアカゴケグモ報告 その2 ー和歌山県橋本市ー	赤松 史憲	15
関西クモ研究会 採集会の記録（2014年度）		18
関西クモ研究会 2014年度例会の記録		21
関西クモ研究会 2013年度会計報告		22

奈良県内のトタテグモ類の新産地

関根 幹夫

New records of the mygalomorph spiders from Nara Prefecture

Mikio Sekine

Several localities of the Mygalomorphs or trapdoor spiders and their kin, i.e. *Latouchia typica* (Ctenizidae), *Conothele fragaria* (Ctenizidae) and *Calommata signata* (Calommatidae), are newly recorded from Nara Prefecture (Figs. 1–3). Each species is listed as the near threatened species. I am grateful to Mr. Koshi Shimohara (Nara Kinoko-no-kai) for giving information regarding the spider pathogenic fungi *Nomuraea atypicola*.

キシノウエトタテグモ *Latouchia typica* (Kishida 1913) (トタテグモ科), キノボリトタテグモ *Conothele fragaria* (Dönitz 1887) (トタテグモ科) とワスレナグモ *Calommata signata* Karsch 1879 (ワスレナグモ科) の 3 種は, トタテグモ類 (トタテグモ下目 Mygalomorphae) に属し (小野 2009), それぞれ環境省版のレッドリストに準絶滅危惧種として掲載されている (環境省 2012. 報道発表資料 第 4 次レッドリストの公表について. (平成 24 年 8 月 28 日付け) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619#main> 2014 年 7 月 12 日参照). これらのクモ類を 2013 年から 2015 年にかけて, 奈良県内で調査した. その結果, これらの種の生息地を確認したので, ここに報告する. また, キシノウエトタテグモについて, 未公表の橿原市の 1 ヶ所の記録 (下原幸士 私信) も併せて報告する. データには, 生息地の標高を記した. 図中に示した地点記号は, 新産地の番号 (既知産地はアルファベット) に対応している (図 1–3). なお, これらのクモのうち, キシノウエトタテグモは, 6 月から 7 月にかけて, 種特異的に寄生するクモタケ *Nomuraea atypicola* (Yasuda 1917) という菌類の子実体が住居入口から生えていることで, 本種の生息を確認することができる.

キシノウエトタテグモ

【新産地】(1) 奈良市春日野町・春日大社参道, 118 m, クモタケ多数確認, 6-VII-2013, (出村 確認) 下原; (2) 奈良市春日野町・春日大社参道 (春日大社から旧志賀直哉邸への道), 128 m, 2 クモタケ確認, 12-VII-2013, (山口 確認) 下原; (3) 生駒市北新町 22 (私道), 214 m, 1 クモタケ確認, 6-VII-2013, 下原; (4) 王寺町本町 3 丁目・孝霊 (こうれい) 天皇陵 (道路に面した石垣に営巣), 85 m, 3 空巣, 19-V-2013, 関根; (5) 桜井市三輪・大神 (おおみわ) 神社表参道 (水路の石垣), 81 m, 1 クモタケ確認, 2-VII-2013, 関根; (6) 橿原市畝傍町・東大谷日女命 (やまとおおたにひめみこと) 神社, 90 m, 1



図 1. 奈良県内のキシノウエトタテグモの産地. ●=新記録地, ○=既知記録地.

Fig. 1. Distribution of *Latouchia typica* in Nara Prefecture. ●=localities newly found, ○=known records.

クモタケ確認, 26-VI-2010, 下原; (7) 明日香村豊浦・甘樫丘 (甘樫茶屋から展望台への階段の下方 5 段に営巣), 99 m, 5 クモタケ確認, 29-VI-2013, 下原.

【既知産地のデータ】(a) 奈良市雑司町・東大寺大仏殿北側の石垣, 1994 (金野・畑守 1994); (b) 奈良市春日野町・奈良公園の月日亭付近, 1994 (金野・畑守 1994); (c) 奈良市西ノ京町・薬師寺, 2009 (クモ類生息地点情報データベース); (d) 三郷町立野・信竜ハイキング道 (崖に営巣), 1♀, 7-VIII-2000 (関根 2003); (e) 橿原市城殿町, 2009 (クモ類生息地点情報データベース); (f) 橿原市城殿町, 2009 (クモ類生息地点情報データベース).

既知産地のうち, 奈良市春日野町・奈良公園の月日亭付近は, 多数営巣, 20-VII-2013; 三郷町立野・信竜ハイキング道は, 1 空巣, 17-V-2013, 以上確認者は関根. 奈良市雑司町・東大寺大仏殿北側については, 2013 年 7 月 20 日に関根が探索したかぎりでは, 営巣を確認できず, 現況は不明. 奈良市西ノ京町・薬師寺と橿原市城殿町については, 未探索である.

キノボリトタテグモ

【新産地】(1) 奈良市春日野町・滝坂の道 (湿った岩壁に営巣), 221 m, 1♀4 空巣,



図2. 奈良県内のキノボリトタテグモの産地. ●=新記録地, ○=既知記録地.

Fig. 2. Distribution of *Conothele fragaria* in Nara Prefecture. ●=localities newly found, ○=known records.

5-I-2015 ; (2) 奈良市山町・円照寺 (参道の石垣に営巣), 105 m, 2 空巣, 22-VIII-2014 ; (3) 斑鳩町三井・三井神社 (スギの樹幹に営巣), 71 m, 1 空巣, 10-VI-2013 ; (4) 三郷町立野・信竜ハイキング道 (崖に営巣), 107 m, 2 空巣, 16-V-2013 ; (5) 三郷町立野・信竜ハイキング道 (アベマキの樹幹に営巣), 141 m, 1 空巣, 17-V-2013 ; (6) 王寺町本町3丁目・孝霊 (こうれい) 天皇陵 (道路に面した石垣に営巣), 85 m, 1 空巣, 19-V-2013 ; (7) 葛城市加守・二上山雄岳裾野 (湿った岩壁に営巣), 241 m, 1 空巣, 8-I-2015 ; (8) 橿原市大谷町・畝傍山山頂付近 (崖に営巣), 191 m, 1 空巣, 2-IV-2014 ; (9) 宇陀市室生区室生・室生龍穴 (むろうりゅうけつ) 神社 (境内の石垣に営巣), 361 m, 1 空巣, 23-V-2013, 以上いずれも関根確認.

【既知産地のデータ】(a) 奈良市雑司町・東大寺大仏殿北側の石垣, 1994 (金野・畑守 1994) ; (b) 奈良市雑司町・御蓋山北側の吉城川沿いの道のモミ・イチイガシの樹皮に古い住居多数, 1994 (金野・畑守 1994) ; (c) 吉野町吉野山, 空巣, 10-VIII-1962 (小野・八木沼 1963).

これらの既知産地のうち奈良市雑司町・東大寺大仏殿北側の石垣については, 2013年7月20日に関根が探索したかぎりでは営巣を確認できず, 現況は不明. 奈良市雑司町・御蓋山北側の吉城川沿いの道については, 1 空巣 (石垣に営巣), 3-IV-2014, 確認



図 3. 奈良県内のワスレナグモの産地. ●=新記録地, ○=既知記録地.

Fig. 3. Distribution of *Calommata signata* in Nara Prefecture. ●=localities newly found, ○=known records.

者は関根. 吉野町吉野山については, 未探索である.

ワスレナグモ

【新産地】(1) 広陵町大場・巖島 (いつくしま) 神社, 48 m, 1 空巢, 25-V-2013 ; (2) 葛城市辨之庄・諸鋤 (もろくわ) 神社, 84 m, 1 ♀, 他に住居多数, 13-V-2013, 以上いずれも関根確認.

【既知産地のデータ】(a) 奈良市白毫寺町 (田中穂積採集), 1 ♀, 24-IX-2000 (坂口 2001, 新海 2007) ; (b) 大和高田市野口・保食 (うけもち) 神社, 1 幼体, 12-X-2002 (赤松 2003a, 新海 2007) ; (c) 葛城市 (旧當麻町) 大畑・春日神社, 2 ♀, 30-III-2002, 1 幼体, 15-VIII-2002 (赤松 2003b, 新海 2007).

これらの既知産地については, 未探索である.

謝辞: 今回の調査にあたって, 奈良きのこの会の下原幸士氏からクモタケの生息に関する多くの情報をご教示いただいた. ここに記し, 感謝申し上げます.

引用文献

- 赤松史憲, 2003a. 採集散策日記～大和高田市(神社編)～. くものいと, 33: 24–35.
- 赤松史憲, 2003b. 採集散策日記～奈良県當麻町(神社編)～. くものいと, 34: 14–24.
- 金野 晋・畑守有紀, 1994. 奈良公園のトタテグモ類. 奈良公園の自然, pp. 188–192. 奈良教育大学(奈良).
- "クモ類生息地点情報データベース". 日本蜘蛛学会. <http://www.arachnology.jp/DDBSJ.php>, (参照 2014年8月).
- 小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会(神奈川), xvi + 738pp.
- 小野武比古・八木沼健夫, 1963. トリノフンダマシの網を求めて. *Atypus*, 28: 7–9.
- 坂口佳史, 2001. 関西クモ研究会奈良市内採集会の報告. くものいと, 29: 46–50.
- 関根幹夫, 2003. 信貴山付近のクモ類目録. くものいと, 33: 15–20.
- 新海 明, 2007. ワスレナグモの全国分布調査結果. *Kishidaia*, 92: 39–52.

カバキコマチグモとミドリアシナガグモを奈良県で確認

関根 幹 夫

The yellow sac spider *Cheiracanthium japonicum* (Araneae: Miturgidae) and the long-jawed spider *Tetragnatha pinicola* (Araneae: Tetragnathidae) live in Nara Prefecture

Mikio Sekine

カバキコマチグモ *Cheiracanthium japonicum* Bösenberg & Strand 1906 (クモ目ツチブクログモ科) を奈良県の吉野町で採集した。採集場所は、オギの生える湿地水田である。また、ミドリアシナガグモ *Tetragnatha pinicola* L. Koch 1870 (クモ目アシナガグモ科) を、奈良県の大台ヶ原でミヤコザサ笹原のピーティングにより採集した。CD 日本クモ Ver. 2012 (新海ら 2012) によれば、これらのクモはいずれも奈良県新記録であるので、ここに報告する。なお、大台ヶ原での採集は、捕獲の許可(環近地国許第 1407114号)に基づいて行ったものである。

カバキコマチグモ : 20-VII-2014, 奈良県吉野郡吉野町志賀,

34° 24' 31.4" N, 135° 52' 27.8" E, 標高 215 m, 1♀.

ミドリアシナガグモ : 6-VIII-2014, 奈良県吉野郡上北山村小椽・東大台ヶ原,

34° 10' 50.5" N, 136° 06' 04.0" E, 標高 1580 m, 1♀1幼.



図1. カバキコマチグモの産室 — この中に産卵している.



図2. ミドリアシナガグモの雌 — 笹原のピーティングにより捕獲.

引用文献

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2012. CD 日本のクモ Ver.2012, CD-ROM, 著者ら
自刊.

チュウガタコガネグモは山地性のクモなのか？

関根 幹夫

Does the orb web spider *Argiope boesenbergi* live in mountainous regions by choice?

Mikio Sekine

It has been pointed out that the orb web spider *Argiope boesenbergi* lives in mountainous regions by choice, in comparison with *Argiope amoena*. In order to find out whether or not it is true, the distribution of *A. boesenbergi* and *A. amoena* was surveyed in Nara Prefecture in 2013–2014, respectively. I also checked out the observations on the spiders in other several prefectures. Figure 1 is a diagram showing the vertical distribution of *A. boesenbergi* and *A. amoena*. No significant differences existed between *A. boesenbergi* and *A. amoena* in distribution (Welch's *t* test; $P = 0.065$). It suggests that the hypothesis is not quite right.

はじめに

チュウガタコガネグモは、山地の草間に網を張るクモと言われている（新海 2006）。また、チュウガタコガネグモが高標高域に、コガネグモが低標高域にすみわけて生息するという仮説の検証が、神奈川県丹沢大山総合調査で行われたが、両者の分布は重なっており立証されなかったと報告されている（池田ら 2007）。

今回、チュウガタコガネグモはコガネグモに比べて山地性のクモであるという言説について、検討を試みたのでここに報告する。

方 法

チュウガタコガネグモとコガネグモの生息調査をそれぞれ目視により実施した。調査は奈良県下で両種の成体出現期である2013年の6月から8月と2014年の6月から7月に行った。両種の雌は腹部上面の斑紋と体が大きいことにより、同属の他種から見分けることができる（谷川 2009）。また本稿では、長野県（宮下 直 私信）、千葉県（馬場友希 私信）、福岡県と山口県（山崎茂幸 私信）、愛媛県（松田久司 私信）と三重県（塩崎哲哉 私信）での両種の知見を、奈良県下で得られた生息調査結果に併せて使用させて頂いた。

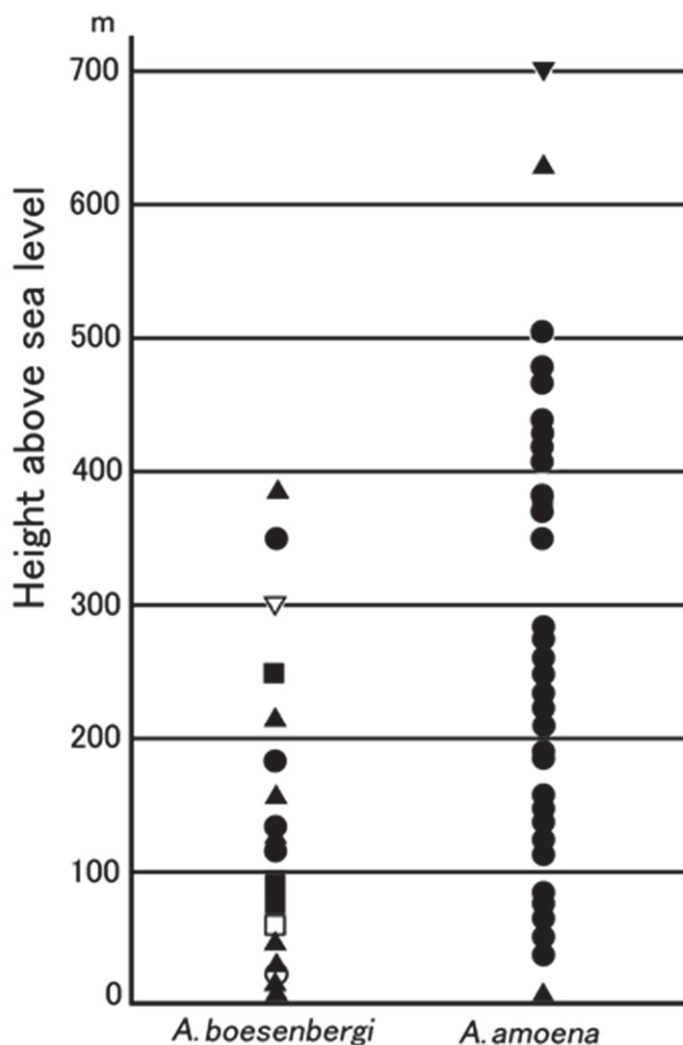


図1. チュウガタコガネグモとコガネグモの垂直分布. ●: 奈良県 2013 年~2014 年, ▼: 長野県 2014 年 (宮下 直 私信), ○: 千葉県 2004 年 (馬場友希 私信), □: 福岡県 2006 年 (山崎茂幸 私信), ▽: 山口県 2011 年 (山崎茂幸 私信), ■: 愛媛県 2007 年, 2008 年, 2011 年 (松田久司 私信), ▲: 三重県 1995 年~2007 年 (塩崎哲哉 私信).

Fig. 1. The vertical distribution of *A. boesenbergi* and *A. amoena*. ●: Nara Pref. 2013–2014, ▼: Nagano Pref. 2014 (T. Miyashita, pers. comm.), ○: Chiba Pref. 2004 (Y. Baba, pers. comm.), □: Fukuoka Pref. 2006 (S. Yamasaki, pers. comm.), ▽: Yamaguchi Pref. 2011 (S. Yamasaki, pers. comm.), ■: Ehime Pref. 2007, 2008, 2011 (H. Matsuda, pers. comm.), ▲: Mie Pref. 1995–2007 (T. Shiozaki, pers. comm.).

結 果

チュウガタコガネグモとコガネグモの生息地と標高との関係を図 1 に示す。チュウガタコガネグモの垂直分布の平均標高は $113.9 \text{ m} \pm 18.1$ (平均値 \pm 標準誤差), 分布範囲は標高 2 m~390 m であった ($n = 34$)。一方, コガネグモの垂直分布の平均標高は $158.3 \text{ m} \pm 15.2$, 分布範囲は標高 2 m~700 m であった ($n = 94$)。両種の標高の違いについて統計検定では有意差が認められなかった (Welch's t test; $P = 0.065$)。

考 察

チュウガタコガネグモの垂直分布範囲とコガネグモの垂直分布範囲の比較から, チュウガタコガネグモよりもコガネグモの方が, 低地から高地まで幅広く分布する傾向がみられたが (図 1), 統計検定では両種の標高の違いに有意差は認められなかった。このことから, チュウガタコガネグモはコガネグモに比べて山地性のクモであるという言説は必ずしも正しくはないということが示唆された。

チュウガタコガネグモが山地性のクモという印象を与えるのは, 何故だろう? ここでは, 可能性のうちの一つを述べるにとどまるが, チュウガタコガネグモが関東地方で谷戸・谷津田などと呼ばれる場所, すなわち丘陵地が浸食されて形成された谷状の地形の林縁部で見られることによるのではないだろうか。チュウガタコガネグモの生息環境については, 更なる研究が必要であろう。

引用文献

- 池田博明・谷川明男・初芝伸吾・安藤昭久・貞元己良・新海栄一, 2007. II クモ類. pp. 269–274. In: 丹沢大山総合調査団 (編) 丹沢大山総合調査学術報告書. (財) 平岡環境科学研究所 (神奈川), 794 pp.
- 新海栄一, 2006. 日本のクモ. 文一総合出版 (東京), 335 pp.
- 谷川明男, 2009. コガネグモ. P. 425. In: 小野展嗣 (編) 日本産クモ類. 東海大学出版会 (神奈川), xvi+738 pp.

アダンソンハエトリ チェコへ行く

アダンソンハエトリの長旅

本多佳子

2012年秋、チェコのクモ研究者 V. Hula 博士から SNS のフェイスブックを通じてメッセージが届きました。日本のアダンソンハエトリのオス成体を探しているという内容でした。アダンソンハエトリは世界中に広く分布している屋内性のハエトリグモで、西日本では普通種です。しかし特別だったのは、個体を生きたまま送ってほしいと言われたことでした。というのも、彼（の知人の研究者）の目的がクモの染色体の数を確認したいということで、死んだサンプルだと DNA が分解されてしまうからです。ド田舎ですが殺虫剤メーカーの敷地内に暮らしているせいか、生憎私の狭い部屋にはアダンソンくんが生息しておりません。池田博明さんに相談したところ、東京蜘蛛談話会のホームページで募集をかけて下さり、幸運なことに大阪の黒田さんがご自宅でアダンソンハエトリのオスを採集して下さいました。ところがメールのトラブルで私と黒田さんが直接連絡をとれたのはそれから 10 日も後になってしまい、クモを生きたまま現地へ送るには私の住む広島を経由するよりも大阪から送ってもらった方が早いだろうと判断し、黒田さんからチェコまで航空便で直接送って頂きました。

今は便利なもので、追跡番号で荷物のいる場所を追うことができます。箕面を出た荷物はその晩のうちに関空を出発したというスピードでしたので、これは予定通り 1 週間でチェコに着くだろうと高を括っておりました。

ところが、クリスマスを過ぎても届いた気配がありません。休暇で郵便局がサボっているにしても、アダンソンさんの命がかかっているので困ります。12月29日に先方からもまだ届かないと連絡があり、追跡番号では 22 日にはチェコの税関に届いている筈だと伝えました。年が明けて 1 月 3 日、税関に直接出向いて受け取ったと報告がありました。黒田さんの採集から実に 1 か月以上経過していました。

何故ハエトリグモがあちらの研究者の元に届かなかったのか？ どうやら税関で非常に高価な品だと勘違いされ、係員に横領されかけていたのが原因だったようです。中身を開け、換金価値の無い標本であると説明して受け取ったと聞きました。航空便には内容物とその価格を記述する欄があるのですが、黒田さんはサンプルの価値を色々考慮された結果、1000 yen と記載していたのでした。後から他の研究者の方々に聞いたところ、自分たちにとってはプライスレスな標本でも、一般人には価値のないものなので、0 円と書くべき！だそうです。実際に向こうの研究者の方にも、次からは 20 以下の数字で書いてほしいと言われました。

何はともあれ、黒田さんのご協力で始まったハエトリの長旅は無事に終わり、試験データも得られたとのことでした。旅をしたアダンソンハエトリの染色体数は Suzuki (1951, 1954) の論文（長崎採集）から予想していた数とは違っていたようで、サンプルを増やして調査したいね、とのことでした。

最後になりますが、クモの採集と送付を快く引き受けて下さった関西クモ研究会の黒田さん、助言を下さった東京蜘蛛談話会の池田博明さん、追手門学院大学の西川先生と加村先生にお礼申し上げます。

文献

- Suzuki, S. 1951. Karyotypes in two families of spiders, Salticidae and Argiopidae. Zool. Mag., 60: 3–4.
- Suzuki, S. 1954. Cytological studies in spiders. III. Studies on the chromosomes of fifty-seven species of spiders belonging to seventeen families, with general considerations on chromosomal evolution. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B. Div. 1, 15(2): 23–136.

海外に蜘蛛を送ってみた！

黒田 あき

2012年の10月頃だったと思います。東京蜘蛛談話会に「アダンソンハエトリ求む」というような書き込みがありました。私は「東京にはあんまりいないのかなあ？」と思って、「クモを送れますが」とホームページ作成者の池田さんにメールしました。そこで、そもそもの依頼主の本多さんにあらためてメールをしました。

しかし、本多さんは広島にいらっしゃるということがわかって、「大阪より寒い東京には少ないのかも知れないけれど、大阪よりも温暖で自然環境の豊かであろう広島に少ないの??？」と思いつつ、さらには寒さが厳しくなり個体の数も減少することを心配しつつ連絡を待ちました。

すると「チェコの方が生きたアダンハエトリを必要としているので、そのまま送って下さい」とのこと。「チェ、チェコ?? 海外…どこらへんだっけ?? …そ、そんなあっさり言われても…」海外には手紙すら送った経験がないし、国内でも、生きた蜘蛛を誰かに送った経験がない。それでも私の頭の中で、ちょっぴりワクワクするし面白い試みに展開しました。

宛先の住所をインターネットで調べると学校でした。蜘蛛に関する人だということまではわかりませんでした。チェコの位置はしっかり確認できました。次に考えるべきことは生かしたまま、どのようにしてその国へ送るのかという問題でした。

生きた蜘蛛を瓶に入れる時は、少し湿らせたティッシュを入れるといい、という話もありますが、狭い空間での過度な湿度が原因で死ぬこともあります。そのことを大学時代に加村先生から教わっていましたが、あえてどのように送付すればいいのか、本多さんにメールしました。すると、紙を湿らせて…という返事がきました。「いやい

やいやいや、ダメダメ、死んでしまう…」聞いたくせに、そう思って、スクリュウ瓶の蓋をいったん湿らせて、ティッシュでしっかりふき取って、紙は入れずに蜘蛛を入れました。エサは、入れてもストレスになるといけないからと、蜘蛛以外はなんにも入れませんでした。

郵送方法は、何種類かありましたが、公的な機関である郵便局からが一番安心だろうと思って郵便局の国際郵便を選びました。海外旅行の大好きな友人と、英語の少しできる友達を連れて郵便局へ行き、窓口で「国際便を送りたいので用紙をください」と言いましたら、「どこの国ですか？」と聞かれました。国を聞いてくることにドキドキしました。「チェコです」と言いますと、「ドイツ経由になりますね」と言われたと思います。宛先と、自分の名前を友達の指示を受けながら書いて窓口に出しました。すると、値段を書く項目があって、「そこに送るものの中身と値段を書いてください」と言われました。

「そんなことは書けない…蜘蛛には値段などないし…」と考えて、「スクリュウ瓶代、1000円」と書きました。そして、窓口に出して帰りました。数日で着くとのことだったので、1週間先には、着いたと返事が来るだろうなと思って帰りました。

ところが、1週間たっても、2週間たっても返事がきません。窓口に渡した瞬間から、親心が芽生えて、「あの子は無事かしら…」とそわそわ。生きているのですから、心配でなりません。「あんなに小さな体で飛行機の圧力に、長旅に耐えられるのか…。途中で事故にでもあっていないか。3週間、4週間…蜘蛛はなんにも食べなくても1か月ぐらい平気だけれど…宛先を間違えたのか梱包（A4封筒に梱包材に包んでスクリュウ瓶1個を入れました）があまかったのか…。」心配事がどんどん膨れあがるばかりの日々でした。

結局、私が1000円と書いたことが問題で、チェコという国では大変高額であると思われたことから（空港の人は高額のものだと何かしらマージンがもらえると思うらしい）、依頼主は受け取りに空港まで行かねばならなかった、すぐには受け取れなかったために時間がかかった、しかし蜘蛛は無事であった、ということでした。

のちに、この話をいろいろな所でしたら、プレゼントと書けば値段は書かなくてもいいし、中身も書かなくていいと教えてもらい、過去に同じようなことをしてトラブルに巻き込まれたことがある、などという話も聞いて、軽率だったと反省もしました。

その後は、なぜアダンソンハエトリは異国で必要とされたのか、なぜ生きたものじゃなくてはならなかったのか、という疑問を残したまま、本多さんとお会いするまでよくわからないまま月日がたちました。さらにお会いする機会もあって、お話を聞きましたが、専門的なことで良くわからないので書けませんから本多さんに書いてもらうようお願いしました。本多さん書いてくださってありがとうございました。

今日に至っても、アダンソンハエトリは相も変わらず我が家をウロウロしています。私の目には、まったく注目に値する発見がありません。残っている彼らには、親心もありません。お互いに争うこともなく仲よくすることもなく平和に共存できる日々を送っています。

青いジョロウグモ?

加 村 隆 英

私のところには、クモに関する問い合わせがときどき舞い込んでくる。食品や衣料関係の会社から、製品にクモが混入していたというクレームがあったので同定してもらえないかというものが多いが、一方で、珍しいクモを見つけたので教えてほしいという市民からの質問もある。製品に混入していたクモを同定する場合は、潰れたり干からびていたりすることもあるので、正確なことを答えるために、その現物を見る必要があるが、市民からの身近なクモについての質問で、写真が添付されているときは、ほとんどすぐに答えが出る。「こんなクモは初めて見ました」とのメールを読んで、ちょっと期待して写真を見ると、それはアオオビハエトリだったり、ナガコガネグモだったり、また、クモではなくヨコヅナサシガメだったりして、まったく珍しいものではないことがほとんどである。そんななかで、少しかわった事例を紹介しよう。

2013年10月に次のような内容のメールが届いた。

「9月末に、不自然なほど真っ青なクモを見つけました。全体に青いものだけでなく、脚だけ青いものや胴体が部分的に青いものもいます。クモの種類はジョロウグモだと思います。この色は異常なものでしょうか。あるいは、ふつうにあるものなのでしょうか。あまりにも鮮やかな色なので気になっています。」

メールには10枚ほどの写真が添付されていて、それを見ると、たしかに全体に青かったり、脚だけ青かったりするクモが写っていた。脚だけが青い個体はその腹部の色彩からジョロウグモであることはまちがいないようだった。ただ、どの写真もかなり不鮮明なもので、それだけでは明瞭な結論を出すことはできなかった。そこで、先方には、「たしかにジョロウグモのようです。このような色彩の個体は初めて見ました。自然状態でこの色彩が現れているとすると、いわゆる色彩変異でしょう。しかし、正確なことはわかりません。」と書き送ったうえで、観察場所の詳細を尋ねてみた。

すぐに返事が来て、この青いジョロウグモたちがいるのは、滋賀県大津市の「瀬田の唐橋」から1kmほど南の瀬田川左岸の道路沿いであることがわかった。そこで、現地に向いて確認することにしたのである。2013年10月16日、瀬田の唐橋から瀬田川を右手に見つつ、車道沿いを歩いた。たしかに道沿いの樹木の間にはジョロウグモが多い。

しばらく歩くと、網に占座する青いクモが現れた。一目見て、それが自然の色ではないことが分かった。それは塗料で着色されたものだったのである。さらに歩いていくと同じようなクモがたくさん見つかった。すでに知らされていたように、個体によって、いろいろな部位が着色されている。さらに、青色だけでなく、赤く塗られている個体も見つかった。また、その着色の状態から、スプレーで噴霧したのではなく、絵筆か刷毛でひとつひとつ塗られていることがわかった。この青や赤に着色されたク



図 1-2. 塗料で着色されたジョロウグモ. 1 (左), 網に占座している個体; 2 (右), 採集して室内で撮影したもの. 塗料の一部に気泡ができて, そのまま固まったようすがわかる.

モたちは, 見たところは, ふつうに網に占座しており, 中には交尾している個体もいた.

「不自然なほど真っ青なクモ」の正体は明らかとなった. やはり自然の色彩ではなかったのである. 質問メールをくれた人には, 「色彩変異かも」などといういい加減な返答をしていたので, 直ちに事実を伝えた.

こうしてクモそのものについては, その正体が明らかになったものの, では, いったい誰が, 何の目的でこのようなことをしたのかという大きな疑問が残った. 着色されたクモを見ると, けっこう丁寧に細い脚にも色が塗られていて, それなりに手間のかかる仕事がされている. いたずら半分にクモに色スプレーをかけてみたということではなく, 何らかの目的があつてのことだと思われるのである. ある種の野外実験が試みられたのであろうか. 真相は謎である.

(付記. この話は, 関西クモ研究会の 2013 年度例会で紹介したものである.)

セアカゴケグモ報告 その2 ー和歌山県橋本市ー

赤松 史憲

前回報告させていただきました、橋本市内のコンビニエンスストア（以降コンビニ）のセアカゴケグモのその後について、報告させていただきます。

月ごとに何か動態に変化が見られるのか（生息場所が変化するか）、また周囲に同様な生息分布（人の背丈より上方に巣を張っている）場所はあるのかという疑問を解決するために、2013年9月～2014年8月に毎月1回の観察を行いました。

観察を通じ、コンビニの構造によって、セアカゴケグモとその他のクモとの間で、巣の張り場所に違いがある事がわかりました。その違いというのは、「ガラスを含む構造物付近（ガラスの窓枠付近の空間）にはセアカゴケグモ以外のクモが生息し、ガラスを含まない構造物付近（壁や柱のみで構成されている空間）にはセアカゴケグモが生息している」というものです。これは1年を通して毎月同様に観察された事例で、2013年12月、2014年3月・6月・9月に上記2つの構造の位置別での生息個体数（目視で確認できる範囲で）を記録しました。観察した位置は図1のとおりで、確認できたクモの個体数を表1に示します。

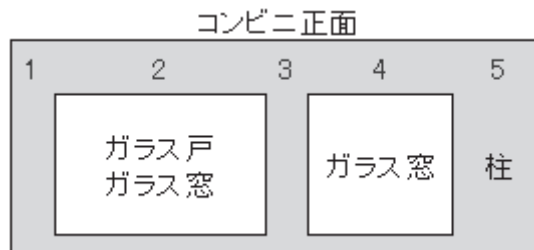


図1. 観察を行ったコンビニの正面の見取り図。観察した位置を1～5で示す。

表1. 和歌山県橋本市内の某コンビニで観察されたセアカゴケグモとその他のクモの個体数。観察日は次のとおり。2013年12月5日、2014年3月3日、6月12日、9月3日。表上部の数字は図1と対応している。

日付	1		2		3		4		5	
	セアカ	その他	セアカ	その他	セアカ	その他	セアカ	その他	セアカ	その他
2013.12	1	2	0	8	2	3	0	2	11	6
2014.03	1	0	0	1	2	0	0	0	5	1
2014.06	1	0	0	1	2	0	0	0	5	1
2014.09	1	0	0	1	2	0	0	2	12	5

このうち位置 5 で、個体数が多くなっていますが、これは捕虫灯が位置 5 にあったため、他の位置に比べて餌となる昆虫を多く獲得できたためだと思われます。

個体数については上記 4 回の記録しかありませんが、他の月についても、同様にガラス窓部分（位置 2, 4）でセアカゴケグモを確認することはできず、柱部分（位置 1, 3, 5）でのみセアカゴケグモを確認することができました。そして今回特筆すべきは、ほとんどのセアカゴケグモはコンビニの建物上部の軒先（地上から 3 m 位）の位置に多く生息していたという点です。

では、この現象は橋本市内のコンビニで共通してみられる現象であるのかを確認することとしました。そこで先ほど調査した某コンビニの周囲 3 km 圏内にある橋本市内 6 箇所のコンビニエンスストアの建物周辺を観察し、結果が表 2 です。

表 2. 和歌山県橋本市内の 6 店舗のコンビニ（表 1 以外の店舗）で、2013 年 11 月 2 日に観察されたクモ類の生息状況。

観察場所	建物上部		建物下部	
	セアカゴケグモ	その他オニグモ等	セアカゴケグモ	その他オニグモ等
1 箇所目	無	有	有	無
2 箇所目	無	有	有	無
3 箇所目	無	有	有	無
4 箇所目	無	有	無	無
5 箇所目	無	有	有	無
6 箇所目	無	有	有	無

このように、周囲のコンビニではセアカゴケグモの生息を確認できたものの、全て建物下部（途上から 0.5 m 以内）でのみでの確認できました。

ではこの生息高さの違いの要因は何なのでしょう。考えられる環境要因のひとつである、従業員によるクモの巣清掃ストレスに関して、店員の方に聞き取り調査を行いました。その結果、全てのコンビニで「特にクモのみに特化して清掃を行っているわけではなく、気になればクモの巣を清掃している程度」との事でした。ただ、某コンビニでは「多い時期には清掃後 1 時間程度で蜘蛛の巣が張られている」との意見をいただきました。

これら通年の観察結果から、以下のことがわかりました。

- ① 橋本市内のコンビニには広くセアカゴケグモが分布し、越年定着している。

- ② 橋本市内のコンビニでは, セアカゴケグモはガラス窓付近を避けて巣を張る傾向がある.
- ③ 一般的に国内のセアカゴケグモは地上付近に生息するとされているが, 橋本市内のコンビニでは地上から高い位置にも生息できる環境がある(直接的な要因は不明).

今後、「同様の傾向を他の市町村でも見ることができるのか?」「橋本市内でのこの傾向は経年変化していくのか?」について観察を続けていきたいと思えます. 併せて, コンビニというありふれた空間でも蜘蛛を観察するフィールドとなりえるという事を, この場を借りて知っていただき, 皆様の観察の場のひとつとして役立てばと思っています.



セアカゴケグモ (♀)
大阪府茨木市西安威 追手門学院大学構内,
2013年8月29日, 加村隆英 撮影.

関西クモ研究会 採集会の記録 (2014 年度)

◆ 2014 年 5 月 25 日

場所：大阪府豊能郡豊能町吉川（能勢電鉄妙見口駅～初谷方面）

参加者：荒川 真，伊規須貞子，一木琢郎，一木十郎，伊藤 博，伊藤孝子，加村隆英，岸本正也，新垣雅美，清水裕行，関根幹夫，竹内正幸，西川喜朗，村上協三，山田廣士。（15 名）



2014 年 5 月 25 日の採集会に参加した皆さん

採集あるいは確認されたクモは以下のとおり。括弧内は採集者。科の配列は原則として、小野（2009）に準じる。学名は省略した。

トタテグモ科

キシノウエトタテグモ 1♀（関根）

エンマグモ科

コマツエンマグモ？ 1幼（清水）

タマゴグモ科

ダニグモ 1♀（西川）

ウズグモ科

ウズグモ sp. 1幼（加村）

ヒラタグモ科

ヒラタグモ 1♀（関根）

ハタケグモ科

ハタケグモ 1♀（加村）

ヤチグモ科

シモフリヤチグモ 1♀（関根）

コモリグモ科

クラークコモリグモ 1♀3♂（加村）

ササグモ科

ササグモ 1♀ (関根)

センショウグモ科

センショウグモ 1♂幼 (西川)

サラグモ科

コデーニツサラグモ 1♀ (加村)

ツリサラグモ 1♀ (西川), 1♀ (関根),
1♀ (加村)

ムネグロサラグモ 1♀ (加村)

ヒメグモ科

カレハヒメグモ 1♀ (関根), 1♀ (加
村)

ハラナガヒシガタグモ 1♀ (村上)

アシプトヒメグモ 1♂ (加村)

オオヒメグモ 1♀ (西川)

カグヤヒメグモ 1♀ (関根)

シロカネイソウロウグモ 1♀幼 1♂幼
(加村)

シモフリミジングモ 2♀ (村上)

アシナガグモ科

チュウガタシロカネグモ 1♀ (加村)

アシナガグモ 2♀ (西川)

ヤサガタアシナガグモ 2♀ (加村)

ウロコアシナガグモ 1♀ (関根)

コガネグモ科

ヤマトカナエグモ 2♀ (村上)

ナカムラオニグモ 1♀幼 (加村)

ゴミグモ 1♂ (関根), 1♀ (加村)

ギンメッキゴミグモ 1♂幼 (西川), 1
♀ (加村)

シマゴミグモ 1♀ (加村)

マルゴミグモ 1♀ (関根)

ヤミイロオニグモ 1♀ (加村)

ヌサオニグモ 1♀幼 (西川)

カラオニグモ 1♀ (清水), 1♀ (西川),
1♂ (村上), 1♀1♂ (加村)

ツチフクログモ科

イタチグモ 1♀1幼 (西川)

シボグモ科

シボグモ 1♀ (加村)

エビグモ科

アサヒエビグモ 1♀ (関根), 1幼 (西
川)

ワシグモ科

チャクロワシグモ 1♂ (清水)

ナミトンビグモ 1♀幼 (清水)

マエトビケムリグモ 1♂ (加村)

カニグモ科

ワカバグモ 1♀ (加村)

キハダカニグモ 1♀ (関根)

ヤミイロカニグモ 1♀ (西川)

コハナグモ 1♀1♂ (加村)

イツツグモ科

イツツグモ 1♀ (加村)

ネコグモ科

オトヒメグモ 1♀ (西川)

ハエトリグモ科

アオオビハエトリ 1♂ (加村)

マミジロハエトリ 1♂ (関根), 1♀幼
(西川)

カラスハエトリ 1♀幼 (村上)

カタオカハエトリ 1♂ (加村)

ヤガタハエトリ 1♂ (加村)

◆ 2014年9月21日

場所：大阪府豊能郡豊能町吉川～兵庫県川西市妙見山の南西（能勢電鉄妙見口駅～白
滝神社）

参加者：赤松史憲，伊規須貞子，一木琢郎，一木十郎，岸本正也，黒田あき，関根幹

夫, 田中穂積, 西川喜朗, 西本 裕, 福田孝男, 船曳和代, 村上協三, 山田廣士. (14名)

採集あるいは確認されたクモは以下のとおり. 括弧内は採集者または確認者. 略号は次のとおり. T=豊能町, K=川西市, *=雌雄および成・幼不明. 科の配列は小野(2009)に準じる. 学名は省略した.

ウズグモ科

オウギグモ ♀ (赤松), * (K 西川)

ウズグモ ♀ (赤松)

ハグモ科

ネコハグモ ♀ (赤松), * (T 西川)

ヒラタグモ科

ヒラタグモ * (T 西川)

ヤチグモ科

メガネヤチグモ * (K 西川)

タナグモ科

クサグモ * (T 西川)

ササグモ科

ササグモ * (T 西川)

サラグモ科

ツリサラグモ ♀ (赤松)

ヒメグモ科

オオヒメグモ ♀および幼体 (赤松),
* (T 西川)

カグヤヒメグモ * (T 西川)

ニホンヒメグモ * (T 西川)

シロカネイソウロウグモ ♀ (赤松),
* (T 西川)

カニミジグモ 幼体 (赤松)

ジョロウグモ科

ジョロウグモ * (T 西川, K 西川)

アシナガグモ科

オオシロカネグモ ♀ (赤松)

チュウガタシロカネグモ * (T 西川)

ヤサガタアシナガグモ ♀ (赤松)

コガネグモ科

ナガコガネグモ * (T 西川)

コガタコガネグモ * (T 西川)

ゴミグモ * (T 西川), * (K 西川)

ギンメッキゴミグモ ♀および幼体 (赤松), * (T 西川, K 西川)

ギンナガゴミグモ ♀ (赤松), ♀ (田中)

シマゴミグモ ♀ (赤松)

マルゴミグモ * (T 西川)

ハツリグモ 幼体 (赤松)

ハナグモ科

ワカバグモ * (K 西川)

ハナグモ * (K 西川)

ハエトリグモ科

ネコハエトリ * (T 西川)

アオオビハエトリ * (K 西川)

シラヒゲハエトリ * (K 西川)

文献

小野展嗣 (編) 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会.

文責: 加村 隆英

関西クモ研究会 2014 年度例会の記録

2014 年 12 月 21 日(日)に 大阪市立自然史博物館で 2014 年度の例会が開催された。

役員会

例会に先立って、役員会が開かれた。出席者：田中穂積（会長）、吉田 真（会計）、加村隆英（編集）、西川喜朗・船曳和代（顧問）、関根幹夫（会計監査）。

以下の事項が審議、報告された。

(1) 「くものいと」の編集状況

2014 年 3 月に第 47 号を発行した。第 48 号を 2015 年 3 月に発行する予定。

(2) 2014 年度の行事予定

・採集会：2015 年 5 月 24 日（日）および 2015 年 9 月 27 日（日）、いずれも場所は、天王山（大山崎町）方面。

・例会：2015 年 12 月 20 日（日）に大阪市立自然史博物館で開催。

例会

出席者：赤松史憲，荒川 真，伊藤 博，上田祐補，加村隆英，岸本正也，黒田あき，坂口佳史，清水裕行，関根幹夫，田中穂積，谷川明男，西川喜朗，西本 裕，船曳和代，松本吏樹郎，村上協三，山田廣士，山野忠清，吉田 真（計 20 名）。

講演発表および話題提供

- (1) 谷川明男：種子島にもキムラグモが 2 種いる
- (2) 関根幹夫：奈良県でコガネグモは減少しているのか？
- (3) 清水裕行：2014 年のゴケグモ情報とネット情報
- (4) 加村隆英：これはどんなクモの網？ 連結した円錐形の網
- (5) 岸本正也：クモのフィギュアの話

なお、講演の合間に、役員会で審議、報告した内容を出席者に紹介し、了承を得た。また、出席者全員が近況を報告した。

関西クモ研究会 2013 年度会計報告

収入：	2012 年度からの繰越金	268,692
	会費 2013 年度前受け分繰り入れ	46,000
	会費 2013 年度分入金	20,000
	会費過年度分入金	19,000
	受取利子	90
<hr/>		
合計		353,782
<hr/>		
支出：	くものいと No. 47 表紙用紙	977
	くものいと No. 47 発送用封筒	950
	くものいと No. 47 郵送費	6,640
	くものいと No. 47 印刷費	11,000
	採集会・例会等の案内 郵送費	12,750
	採集会・例会等の案内 ラベル郵送費	1,230
	2012 年度例会お茶代 (前年度未払い分)	1,000
	2014 年度への繰り越し	319,235
<hr/>		
合計		353,782

会費前受け状況

2013 年度末における会費前受け分の合計は、91,000 円である。

その内訳は次のとおり。2014 年度分 50,000 円；2015 年度分 19,000 円；2016 年度分 9,000 円；2017 年度分 7,000 円；2018 年度分 3,000 円；2019 年度分 3,000 円。

上記のとおり、報告します。

会計幹事 吉田 真

会計監査報告

関西クモ研究会 2013 年度会計について、関係諸票書類に基づき監査を行った結果、適正に処理されていることを確認いたしました。

2014 年 5 月 9 日 会計監査 関根 幹夫

くものいと 第48号
2015年3月28日 発行
関西クモ研究会

事務局：567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学 生物学研究室

会 長：田中 穂積

庶務幹事：山野 忠清

会計幹事：吉田 真

編集幹事：加村 隆英

顧 問：西川 喜朗・船曳 和代

会計監査：関根 幹夫